



## 『女性に聞きたい、成熟食時代の 食・魚食への思い』



平成26年3月14日（金）、石垣記念ホール（港区赤坂1丁目9-13 三会堂ビル9階）において、平成25年度国産水産物流通促進事業第3回シンポジウム「女性に聞きたい、成熟食時代の食・魚食への思い」を開催致します。

近年、女性の職場における地位向上、男女平等意識が大きく高揚している中、一方で、家庭の食は依然として母親・女性がつくり、子どもの成長、家族の健康をつくる、守ることに女性が大きく貢献して来たという歴史があります。女性の社会進出、役割の多様化が言われてきた中、これらを実現するために必要な女性のための時間作りが、外食、中食、簡単簡便食というように食の摂取方式に影響を与え、多様化し、近年社会に適合すべく“進化・深化”して来たのではないかと考えられます。家庭内においても家族そろって食べるという家族団欒食卓から、家族それぞれの生活パターンによる個食・孤食に変わったという食事環境も指摘されております。

しかしながら、主婦・女性に対する家庭内役割概念には、大きな変化はなかなか見られないという印象もあります。週末であっても、食品スーパーで子育て世代男性の姿を見ることはなかなかありません。組織管理職への女性登用を増やせと言われてはいる状況ではありますが、家庭内業務の大半は依然として女性が背負っている状況にあるようにも見えます。食品ロス削減への大きな家庭内責任も女性に降りかかっている側面があります。

このような情勢の中、女性が考える食、魚食への思いにつき、意見を聞き、意見交流を図り、まだまだ家庭内食の選択・供給になくてはならない強い立場、責任ある立場として眺望されている女性の思いを知り、魚食普及が抱える課題をさぐって行きたいと思えます。

プログラムは、第一部では「成熟食時代の現状～水産物の供給と食の選択～」(仮題)として、独立行政法人水産大学校水産流通経営学科三木奈都子教授に講演をして頂き、第二部では「女性に聞きたい、成熟食時代の食・魚食への思い」として、各分野の方々5名にパネリストとして登壇願ひ、意見交流をして頂きます。コーディネーターは、毎日新聞社生活報道部小川節子編集委員に務めて頂きます。(了)

【プログラム】

第3回国産水産物流通促進事業シンポジウム

「女性に聞きたい、成熟食時代の食・魚食への思い」

1. 開催日：平成26年3月14日（金）
2. 会場：石垣記念ホール（東京都港区赤坂1丁目9-13 三会堂ビル9階）
3. 主催：一般社団法人大日本水産会（国産水産物流通促進センター構成機関）
4. 後援：全国漁業協同組合連合会、公益社団法人全国学校栄養士協議会、  
一般財団法人東京水産振興会、公益社団法人東京都栄養士会、  
コープネット事業連合などを予定。
5. プログラム：
  - 13:30 主催者あいさつ
  - 13:40 事務局より
  - 13:45 第一部  
「成熟食時代の現状～水産物の供給と食の選択～」(仮題)  
独立行政法人水産大学校水産流通経営学科教授 三木 奈都子氏
  - 14:45 休憩
  - 15:00 第二部 パネルディスカッション  
「女性に聞きたい、成熟食時代の食・魚食への思い」  
コーディネーター  
毎日新聞社生活報道部編集委員 小川 節子氏  
パネリスト  

①	小平市立小平第六小学校栄養教諭	白井 ひで子氏
②	石川県漁協女性部部长	新木 順子氏
③	每味水産株式会社通販事業部	藤井 稚代氏
④	随筆家（社会文化エッセイスト）	山本 ふみこ氏
⑤	料理研究家	宮内 祥子氏
  - 17:00 終了、閉会

(終了後、会場ロビーで来場者を混じえ懇親会を行います)

## 《講演者紹介》

- ・独立行政法人水産大学校水産流通経営学科教授 三木 奈都子氏

静岡県出身。漁業就業者、漁村女性、漁村についての調査研究に携わって来られ、現職にあられます。2003年以降、漁村女性の起業活動支援任意グループの「うみ・ひと・くらしフォーラム」のメンバーとして、シンポジウム等を企画・開催され、地域活動に関わる情報提供やネットワーク形成などの支援をされておられます。実家の農業継承をすべく農学部に進学されたものの、水泳・ダイビングを通じた漁村・離島歩きをきっかけに漁業に携わる人への関心を深めることとなり、海女の漁活動の追っかけ調査を機会に、漁村調査を通じて多様な魚食に魅せられ、調査終了時には必ず両手に“漁”袋を下げてお帰りとのことでした。

## 《コーディネーター紹介》

- ・毎日新聞社生活報道部編集委員 小川 節子氏

1981年毎日新聞社に入社され、横浜支局を振出しに生活家庭部、日曜版編集部、出版局で食の雑誌編集などを担当して来られました。現職の生活報道部では、「食」に関するページを担当され、手作りごはんの楽しさ、レシピ紹介を中心に取材をされています。この他、女性の視点から女性の生き方、働き方、健康に関する情報も数多く取り上げられています。

## 《パネリスト紹介》

(順不同)

- ・小平市立小平第六小学校栄養教諭 白井 ひで子氏

「地域と一緒に」を運営指針とする本校コミュニティースクールで、地域社会との連携、地場農産物・都産水産物の学校給食への活用に取り組んでおられます。平成23・24年度には文科省「栄養教諭を中核にした食育推進事業」実践拠点校の事業推進の中核として、学校・家庭・地域との連携づくりに、給食現場から取り組んで来られました。「食べ物の好き嫌いは、人の好き嫌いに通じる」との思いから、学校給食と言う食育機会を率先活用され、「まず食べてみよう」と児童が思う楽しい「食」の配膳に取り組まれています。

・石川県漁協女性部部长

新木 順子氏

日本海・富山湾に伸びる能登半島に立地する石川県漁協女性部部长を務めておられます。漁師家族のみならず、会社員・看護師・保育士など漁師町女性を会員として、海浜・老人福祉施設清掃、海難遺児募金などの奉仕活動、海を汚さない天然石鯛わかしお普及に取り組むなど、女性活動の促進、豊かな漁村づくりに取組まれています。また、水産加工グループ「輪島・海美味（うみ）工房」を立上げ、新鮮な魚介類・海藻などの加工販売に取り組む、浜の美味しさを多くの人に知って頂く事業展開に尽力されています。

・毎味水産株式会社通販事業部

藤井稚代氏

『海老の町』愛知県西尾市に老舗海老問屋の娘として誕生、現在は築地営業所で家業に励んでおられます。昨年の2013年「海老の日」がないことに気づき記念日登録を申請、制定に成功し、エビ好き仲間4人で夢海老会を結成。『敬老の日には、多年にわたり社会に尽くされた高齢者の方々を敬愛し、長寿の象徴である海老で家族と共に健康と長寿を祝う』という新たな食文化を日本に定着させることを目指しておられます。また、家業の傍ら、海老をはじめ水産物全般に消費者が注目をし、水産業界がさらに元気になるようにと、活動されています。

・随筆家 山本 ふみこ氏

北海道小樽市生まれ。日常の社会生活の目線から、身近な暮らし、食に触れて行く中、女性視点からの気づきを、執筆をもってやさしく伝えておられます。著書には『まないた手帖』（毎日新聞社）、『台所から子どもたちへ』（オレンジページ）、『暮らしと台所の歳時記（旬の野菜で感じる七十二候）』（PHP 研究所）、『ふみこよみ』（技術評論社）などがあります。また、武蔵野市教育委員も務めておられます。

・Jasmin's kitchen&魚食倶楽部代表 宮内 祥子氏

大学卒業後、フランスに留学。パリ・リッツ・エスコフィエ料理学校、ラ・ヴァレンヌ料理学校にてフランス料理、菓子、チーズ、テーブルセッティング、ワイン、パン、フラワーアレンジメント等食全般を研究され、グランデュプロマを取得されています。その後、イタリア・ウルビーノ、スペイン・バルセロナでそれぞれの国料理を研究されました。2010年水産庁上田勝彦氏と共同で魚食倶楽部を創設、魚食普及活動では一魚種を徹底的に使い尽くす魚の料理教室を企画、年間調理魚種は365種類以上に及びます。水産庁「魚の国プロジェクト」に登録参加中、三重県尾鷲市観光大使、大分県干しいたけ食の伝道師を務めておられます。

## シンポジウム一般出席者申込書

シンポジウム名： 「女性に聞きたい、成熟食時代の食・魚食への思い」  
 開催日時： 3月14日（金）13：30より（開場 13：00）  
 開催場所： 石垣記念ホール（東京都港区赤坂1丁目9番13号 三会堂ビル9F）  
 参加希望者： 申込みされる方の氏名、参加人数を以下の表にご記載、ご連絡をお願い致します。席数が限られますので、ご参加できない場合もございますこと、ご了承方お願い致します。

申込日：平成26年 月 日

申込み団体・企業名	
申込者名	
参加人数	
住所または連絡先	
TEL/FAX 番号	
Eメールアドレス	

参加申込書送付先： FAX の場合 03-3582-2337（一社）大日本水産会 魚食普及推進センター  
 Eメールの場合： [miyamoto@suisankai.or.jp](mailto:miyamoto@suisankai.or.jp)（一社）大日本水産会 魚食普及推進センター  
 問合せ先： TEL 03-3585-6684（一社）大日本水産会 魚食普及推進センター  
 会場案内図：

